

繁殖成績アップのために
みんなでチェック！

乳牛が分娩し、その後人工授精を行い受胎する。その分娩から受胎までを空胎日数といえます。前の分娩から次の分娩までの日数を分娩間隔といいますが（空胎日数+およそ280日）。（図1）

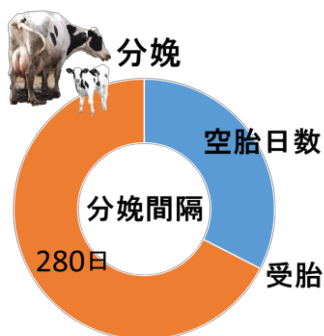


図1 乳牛の分娩間隔

釧路管内平均の分娩間隔は430日（北海道酪農検定検査協会）、目標とされる分娩間隔は400日であり、皆さん繁殖に悩まれていることがわかります。

繁殖成績低下の弊害

繁殖成績が悪化すると乳量だけでなく下がるか計算してみましよう。

分娩間隔から乾乳日数（60日）を引くと搾乳している

日数となります。搾乳日数を2で割ると牛群の平均搾乳日数となります（均等に搾乳日数がばらついている場合）。

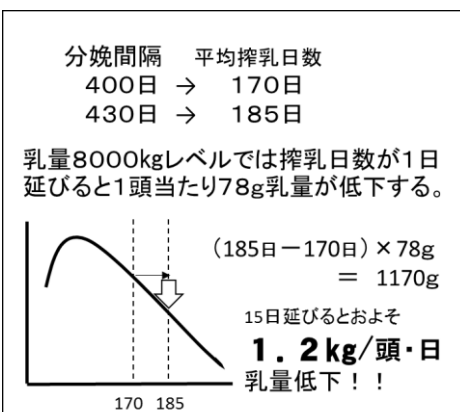


図2 搾乳日数長期化の損失

分娩間隔が400日では平均搾乳日数は170日、430日では185日となります。たとえば平均搾乳日数が15日延長した場合、図2の泌乳曲線から乳量低下を推定すると一頭当たりおよそ1.2kg乳量が低下しています！搾乳頭数が40頭の場合、1日48kgの乳量低下をとめない、牛一頭分搾れていません！

繁殖管理のポイント

繁殖成績アップのためには、担当者だけでなく家族・従業員

- ① 発情周期を見逃さないために、誰でも本日の要注意牛がわかる
 - ② 未受胎の牛が何頭いるのか皆がわかる（全体の状況がわかる）
- ことです。このポイントを抑え、家族も見てわかる繁殖ボードを作りませんか？

繁殖管理ボードの作成（搾乳頭数40頭規模）

- 材料
- ・ ホワイトボード（1万円）
 - ・ 両面マグネットシート白黄（400円×4枚）
 - ・ 罫線テープ（460円）
 - ・ マーカー（170円）
 - ・ ボード消し（400円）
 - ・ ジェネティクス北海道などの繁殖カレンダー

個体NO.	分娩	AI	個体NO.	分娩	AI
6100	7/20		6119	5/29	
6219	6/5		6115	6/8	
6227	6/14		6261		7/16
6046	7/2		6160	5/9	
6186	5/25		6154	7/19	
6263	7/13		6173		7/19
6030	7/1		6185		11/10
6230		10/3	6199	5/16	
6103			6221	7/25	
6150		2/14	6157	7/2	
6164		1/4	6188		2/2
6193		9/20	6104		2/10
6133	7/12		6232		8/15
6214	7/5		6217		11/20
6136	7/10	7/10	6267		
6139	7/24				
6134	7/25		6089	6/20	
6074	5/27		6196	6/22	
6067			6240	7/23	
6253	3/10		6235	6/15	

図3 繁殖ボードの例

作成方法
牛の並び順に個体番号を記入し、分娩日・授精日・妊娠すれば分娩予定日を記入します。妊娠牛は個体番号のマグネットを裏返して、見やすく色を変えます。（図3）
発情周期は、繁殖カレンダーで確認します。